

同志社大学社会福祉教育・研究支援センター
教育・研究プロジェクト申請

1. 申請者（代表者）氏名

埋橋孝文

2. プロジェクト・テーマ

「福祉サービスとマンパワーに関する国際比較」

3. 共同研究者氏名と所属（嘱託研究員候補者には*印を付してください）

*野口典子（中京大学現代社会学部）

*三宅洋一（大阪経済大学経済学部）

*金成垣（東京大学社会科学研究所）

*金貞淑（韓国慶尚南道保健環境研究院）

1. 孫希叔（同志社大学大学院社会福祉学専攻後期課程2年生）

2. 廣野俊輔（同上1年生）

3. 崔銀珠（同上1年生）

4. プシュカ・シンライコラ（同上1年生）

5. 咸（ハム）日佑（後期課程の特別学生）

6. 徐栄（同志社大学大学院社会福祉学専攻前期課程2年生）

7. 李善恵（同上1年生）

8. 羅珉京（同志社大学大学院科目等履修生，2008年度大学院前期課程進学予定）

4. 教育・研究の目的と計画概要

東アジア諸国では伝統的に各種ケア（育児や介護）を家族が担い、そのことと関係して社会福祉サービスは、低所得・貧困層を主たる対象とする傾向にあった。しかしこの地域で顕著な少子・高齢化と女性の急速な労働市場参加により、社会福祉サービスへの需要は普遍化しながら急速に高まりつつある。

とはいえ、これまでの歴史的経緯や家族・社会構造の違いから、アジア諸国でも、社会福祉サービスの需要と供給の質と量、また、サービス供給の一つの重要な担い手である福祉マンパワーの質と量の点でもかなりの違いが予想される。

本プロジェクトは次のような項目についての各国の現状把握と国際比較を試み、その相違点をマクロ・ミクロ両面にわたって検討し、それぞれの国の今後の課題と展望を明らかにすることを目的とする。

1. 福祉サービスの需要構造の質的・量的把握（高齢者介護や保育などの各種ケア分野別、家族サービスへの期待と限界、社会サービスへのニーズ、性別役割分担、歴史的展開）、
2. 福祉サービスの供給構造の質的・量的把握（ケア分野別、各種施設と在宅、公私ミッ

クスの現状，NGOの役割，性別役割分担，政策の動向と評価，歴史的展開）。

3. 福祉マンパワーの質と量（ソーシャルワーカーなどの福祉専門職の養成教育と職場環境，キャリアパス，専門職としてのソーシャルワーカーとクライアントの間の信頼関係，ソーシャルワーカーの誇りと戸惑い，専門職資格と団体，政策の動向と評価，歴史的展開）
4. 高齢者介護保障の準備とそのあり方（人口・家族構造，インフラの整備状況，財源をめぐって，公共政策と民間セクター）

5. 年次別教育・研究実施計画

2007年度 ゲスト・スピーカーを招いてのヒアリング，訪問インタビュー，基礎的資料・文献の収集と分析，

2008年度 引き続きゲスト・スピーカーを招いてのヒアリング，訪問インタビュー，基礎的資料・文献の収集と分析，個人発表

2009年度 論文執筆に向けての準備と討議，「院生主体国際セミナー」の開催，成果報告会の開催，論文の執筆

※各年次とも月1回程度の研究会の開催を予定している。適宜，合宿なども盛り込んで運営する。

6. 研究上の予想される貢献と成果

社会福祉サービスの（東アジア）国際比較研究は，国際比較研究のなかでも比較的遅れた分野である。本プロジェクトはマンパワーに注目しつつサービスの需要・供給の両面からの分析アプローチを採用し，アジア諸国の微細な差異や共通性なども明らかにする。こうした視点から国際比較研究の進展に貢献できる。また，今後それぞれの国での政策立案上の参考となる実践的な指針を提示できる。

7. 教育上の予想される貢献と成果

本プロジェクトは4つの国からの参加者（留学大学院生と日本人院生）の共同研究であり，院生がそれぞれの国のみならず近隣アジア諸国についての理解を深めることができる。また，同志社大学社会福祉教育・研究支援センターのこのプロジェクトが，単に学内に留まるのではなく，アジアからの留学院生の研究ネットワークの一つの重要な拠点となることが期待できる。

8. その他特記事項（あれば記入してください）

このプロジェクトで得られた成果を基礎にすることによって，2009年度に予定している「院生主体国際セミナー」を文字通り「主体的」に開催できるのではないかと期待している。